

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（合気道・剣道）の実践

茨城県笠間市立友部^{ともべ}中学校
教諭 綿引 聡

茨城県笠間市は、平成18年3月に旧笠間市と友部町、岩間町の1市2町が合併して発足した。笠間市には約250人の陶芸家や窯元があり、春には大陶器市「陶炎祭」が開かれるなど、焼き物文化が根付いている。

市内には六つの中学校があり、本校は全校生徒543名と、最大規模の学校である。部活動は活発で剣道部や柔道部、相撲部など17の運動部と三つの文化部が活動している。

昨年度、茨城県教育委員会より「武道推進モデル校」の指定を受けたことにより、保健体育科の武道の授業に外部指導者を活用し、教員との連携のもと、1・2年生を対象に合気道と剣道の複数種目の実践に取り組んだ。



校舎全景

1 はじめに

笠間市岩間地区は合気道ゆかりの地とされており、令和元年度より、市内全中学校が保健体育科の武道の単元において合気道を取り入れている。同年8月には国民体育大会が本県で開催され、デモンストレーションとして合気道演武大会が本市で行われ、市内の中学生が大勢参加し、演技を披露するなど、貴重な体験をすることができた。

授業においては、（公財）合気会茨城支部道場より講師を招き、また、授業を通して合気道を経験している教員も複数おり、充実した指導体制となっている。剣道の授業においても剣道を専門とする教員が同様に複数おり、「礼儀を大切にすること」「武道を楽しむ」ことを基本に指導している。

取り第一教・突き小手返し・座技呼吸法の五つの技に加え、2年生では、逆半身片手取り四方投げを加えた六つの技を習得し、単元のまとめとして技の発表会となる演武を行った。

剣道（年間6時間）では、礼法に始まり、素振りを中心に行った。基本となる上下素振りや三拳

動の素振り、四拳動の素振りを中心に行い、習熟度に応じて、早素振りなどを何度も繰り返し行なった。また、単元の後半では、三拳動の正面打ちなど、正面打ちの練習を行った。そして、合気道と同様に、単元のまとめとして、正面打ちの発表会を実施し、互いにその出来映えを評価した。

2 合気道・剣道の授業実践

本校では、合気道を授業で取り扱う前は剣道のみ行っていた。前述の通り、笠間市は合気道と関係が深いこと、私が前任校で合気道を授業で指導していたこと、そして、けがなどのリスクが低く安全性が高いことを理由に合気道を実践することになった。授業は年間6時間とし、構え方や受け身などの基本動作から始まり、体の変更（身体の向きを逆方向に変える）・正面打ち入り身投げ・相半身片手



第一教（合気道）



正面打ち（剣道）



正座をして講師の説明を聞く生徒たち（合気道）

5

授業における生徒の感想と意識

生徒の感想で一番多かったのが

「礼儀の大切さを学んだ」だった。

正座や蹲踞の姿勢から相手の目をしっかりと見て丁寧な礼をするこ
とは、普段のあいさつではしない
ため、生徒たちは改めて「礼をす
る」ことを見直すきっかけになっ
たようだ。生徒は部活動やスポー
ツクラブなどでさまざまな競技を
しており、どのスポーツにおいて
も礼儀は相手に敬意を示すもので
あり、これからも大切にしていき
たいという感想も見られた。

次に多かったのは、「楽しかった」「分かりやすかった」という
内容だった。小学校では、合気道
や剣道に触れたことがない生徒が
ほとんどで、体さばきや腕を使っ
て相手を投げることがや竹刀を使っ
て打つことなどが楽しいようだ。
また、武道の授業においては、講

師3～4名、保健体育科教員4～
5名で行うことができ、より複数
の目で指導することができた。合
気道においては、有段者であり指
導経験豊富な講師がリズムに合わ
せて行う工夫を凝らした動作の説
明や迫力ある演武に生徒は圧倒さ
れていた。剣道においても、有段
者であり剣道を専門とする教諭が
担当し、楽しむことを第一にして
指導したことが分かりやすいとい
う感想につながったと思う。

体育学習カードとは別にアンケ
ートを実施したところ、「武道が
楽しかった」と答えた生徒が8割
を超え、「武道の特性についての
理解は深まったか」という質問に
対しては、ほとんどの生徒が深ま
ったと答えている。そして、「合
気道と剣道以外の武道もやってみ
たいか」という質問に対しては、
やってみたいと答えた生徒が6割
を超えた。このような結果から
も、生徒にとって複数の武道を行
ったことは有意義であったのでは
ないかと考えている。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	合気道						剣道					
学習の流れ	①オリエンテーション ・約束事の確認 ・礼儀作法の確認 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①オリエンテーション ・約束事の確認 ・剣道の歴史 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①オリエンテーション ・約束事の確認 ・剣道の歴史 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認	①導入 ・課題の確認
	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法	②準備運動 ・手首鍛錬法
	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身	③受け身の学習 ・前受け身 ・後ろ受け身
	④技の学習(1) ・体の変更	④技の学習(3) ・片手取第一教	④技の学習(4) ・突き小手返し	④技の学習(5) ・片手取四方投げ	④技の学習(6) ・片手取四方投げ	④技の学習(7) ・片手取四方投げ	④技の学習(8) ・片手取四方投げ	④技の学習(9) ・片手取四方投げ	④技の学習(10) ・片手取四方投げ	④技の学習(11) ・片手取四方投げ	④技の学習(12) ・片手取四方投げ	④技の学習(13) ・片手取四方投げ
	⑤技の学習(2) ・正面打ち入身投げ	⑤技の学習(4) ・突き小手返し	⑤技の学習(5) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(6) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(7) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(8) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(9) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(10) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(11) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(12) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(13) ・片手取四方投げ	⑤技の学習(14) ・片手取四方投げ
	⑥振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り	⑦振り返り

学習の流れ

3

複数の武道を扱う利点

剣道と合気道の両方を学習する
ことで、幅広い体力の向上を目指
した。どちらも同じ動作を繰り返
し稽古するという共通点があるこ
とから、「取（技をかける側）」
の技の正確性や速度の向上、「受
（技をかけられる側）」の対応力の
向上など、敏捷性・巧緻性・調整
力・持久力などを高めることがで
きた。また、合気道と剣道の共通
点として、心構えや礼法、足さば
きなどを精選したことで、反復し
た指導をすることができた。

共通点はいくつかあるが、合気

4

コロナ禍における授業の実践

新型コロナウイルスの感染拡大
に伴い、令和2年度の授業では配

道と剣道では礼法や足さばきなど
細かく見ると違いがあり、それぞ
れの特性により深く触れたこと
で、幅広く理解を深めることがで
きた。生徒には特に相手を尊重す
ることの重要性を説くとともに、
より安全に行うために合気道と剣
道で、それぞれのようないくつか
の共通点を探る機会となつた。そ
れによって、普段の学
校生活においても、武道を通して
相手を尊重し、大切にしていこう
とする態度の育成につながること
ができたと思う。

慮すべき事項がいくつかあった。
武道を実施すべきか迷ったが、合

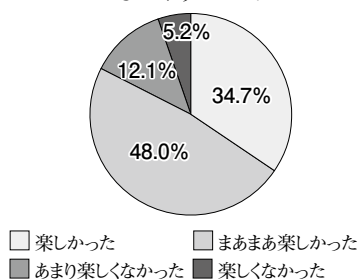
気会茨城支部道場の方に相談し、
さらに本校の教務部と体育部で協
議し、さまざまな面で配慮しなが
ら実施することができた。

配慮した点としては、3点挙げ
られる。1点目は、普段の授業で
あれば、合気道なら相手を投げる
際に「えい」と声を出し、剣道な
ら打つ際に「面」などと声を出さ
ず、声を出さないことを徹底し
た。やや迫力と盛り上がり欠け
たが、安全性を優先した。

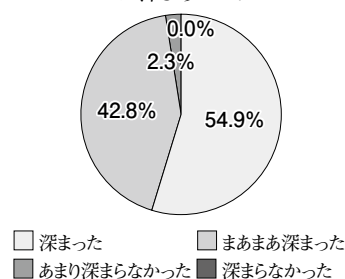
2点目は、手指の消毒の徹底と
マスクの着用である。武道場と体
育館の入り口に消毒液を設置し、
1時間ごとに手指の消毒を行っ
た。また、マスクも常時着用し、
休憩時などでもできるだけ会話を控
えることや距離を保つことを徹底
した。

3点目は、技を精選したこと
である。合気道も剣道も向かい合う
ことが基本となるため、できるだ
け向かい合うことが少なくなるよ
うな技を選んで実施し、感染の防
止を心掛けた。

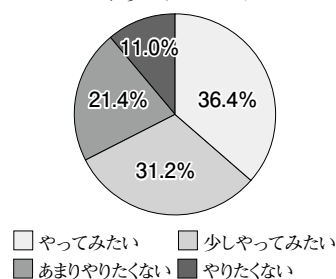
1 武道の学習は楽しかったか？
またやりたいか？



2 武道の特性についての理解
は深まったか？



3 合気道や剣道以外の武道も
やってみたいか？



事後アンケート

6

成果と課題

前述の生徒の感想からも、合気道と剣道の2種目を学習したことで、礼儀や技といった武道の特性をより深く理解することができ、武道への興味・関心を高めることができたことが分かる。しかし、そうではない生徒もいるのが実態であり、今後は生徒がより主体性をもって武道に取り組めるような工夫が必要であると感じた。その一つとして、本年度、市から生徒一人一人にタブレット端末が貸与

され、授業において静止画や動画を有効活用できるようになっただけでなく、インターネットを通して、さらに知識や技能を身に付けられるようになったことで、主体的・対話的な授業の実現につながるのではないかと期待している。

また、剣道と合気道以外にも、相撲やなぎなた、弓道などに触れてみたいという意見もあり、それらの種目を実施できるように検討していきたい。

7

おわりに

私が本市に赴任してから11年が経つ。合気道伝達講習会で初めて合気道に触れてから10年、授業で合気道を行うようになってから6

年が経ち、現在も合気会茨城支部道場の方々に講師として招き、指導していただいている。今後は、我々教員が主体となつて指導でき



体の変更（合気道）



正面打ちの指導（剣道）

るようになることが、講師の方の願いでもある。とはいえ、まだまだ知識や技の習得も未熟であり、指導できる立場ではないため、研修を積み上げていくなど、謙虚に向き合うことが自分にとってさなる成長につながると考えている。

合気道に出会わせてくれた、合

気会茨城支部道場の方に感謝の気持ちを持ち、今度は自分が合気道を広げていけるような存在になりたいと思う。本市で同様に授業を通して合気道を学んだ教員が他の市町村に異動し、武道の授業において合気道を実施している例もあるため、自分もこの学びを幅広くつないでいきたい。